



HOKKAIDO
UNIVERSITY

順応科研(宮内科研)・研究会

この科研で今後やろうと思っていること

「植林と土地紛争がもたらす『被害』:フィールド研究からの
グローバル環境ガバナンスの問い直し」

笹岡正俊

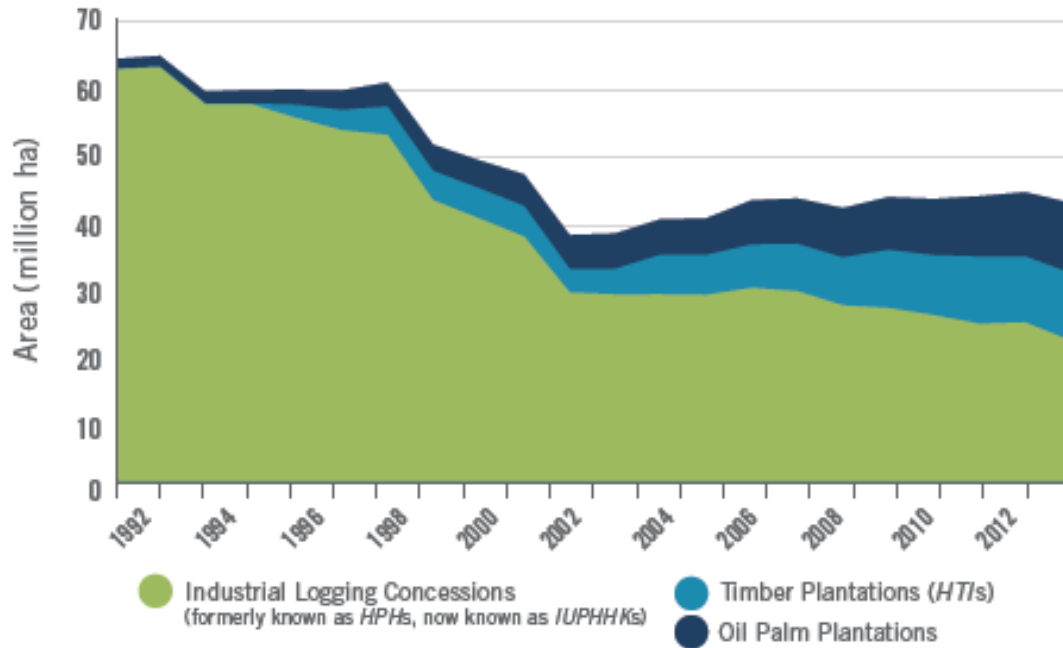
北海道大学大学院文学研究科

m.Sasaoka@let.hokudai.ac.jp

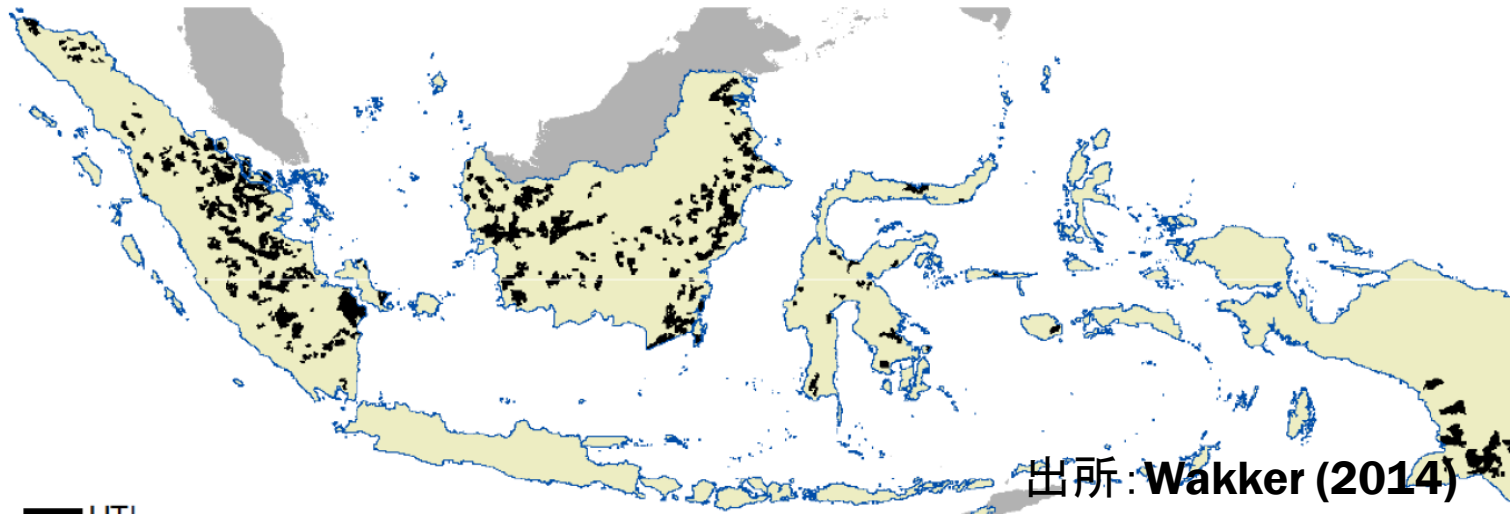
この研究の対象地：紙パルプ原料生産地



人工林・木材林産物利用事業許可 (IUPHHK-HT) = HTI コンセッション



出所: **Forest Trends 2015**



出所: **Wakker (2014)**



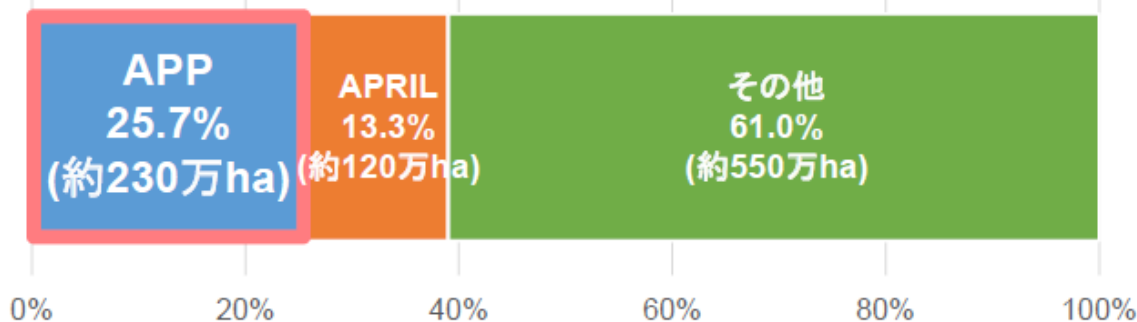
産業造林事業許可の大規模保有者（上位10位）

順位	株式会社名	州	面積 (ha)
1	リアウ・アングラン・パルプ&ペーパー	リアウ	350,165
2	アララ・アバディ	リアウ	299,975
3	フィンナンタラ・インティガ	西カリマンタン	299,700
4	ムシ・フータン・ベルサダ (丸紅の子会社)	南スマトラ	296,400
5	ウィラカルヤ・サクティ	ジャンビ	293,812
6	フータン・リンダング・バヌア	南カリマンタン	268,585
7	ブミ・メカール・ヒジャウ	南スマトラ	250,370
8	メラウケ・ラヨン・ジャヤ	パプア	206,800
9	アディンド・フタニ・レストリ	東カリマンタン	201,821
10	ブミ・アングラス・ベルマイ	南スマトラ	192,700

紙パルプ原料生産地での様々な環境・社会問題:

- 生物多様性の消失
- 二酸化炭素排出
- 数々の土地紛争・人権侵害

企業グループによる産業造林事業許可の保有状況（2010年12月時点）



出所: 藤原(2017)



HOKKAIDO UNIVERSITY

APP-FCP の宣言(2013年2月)



sustainability / vision 2020 / forest conservation policy

Forest Conservation Policy

The most critical issue in APP's Sustainability Roadmap Vision 2020 was our target to completely eliminate all natural forest derived products in our entire supply chain by 2020. Initially the APP Sustainability Roadmap set out a plan for APP to implement High Conservation Value (HCV) principles and end natural forest clearance across the supply chain by 2015. On February 5th 2013, we announced the Forest Conservation Policy to be in immediate effect, meaning that the objective had been accelerated by almost two years.

There are four commitments underpinning the overall objective of our Forest Conservation Policy:

Policy commitment 1: APP and its suppliers will only develop areas that are not forested, as identified through independent HCV and HCS assessments:

- From 1st February 2013 all natural forest clearance has been suspended whilst HCV and HCS assessments are completed. No further clearance of areas identified as forest will take place.
- APP has conducted an initial assessment of all of its supply chain. It has prioritised HCV and HCS assessments in those concessions that up to now have been supplying the company with natural forest fibre. HCV and HCS areas will be protected.
- On HCS work has started to identify the area and quality of forest cover. Satellite analysis, backed up by field work, will identify areas that will be protected as well as low carbon



[view all blog posts ...](#)

Sustainability Roadmap

Learn about APP's commitments to environmental performance, biodiversity conservation and the protection of community rights.

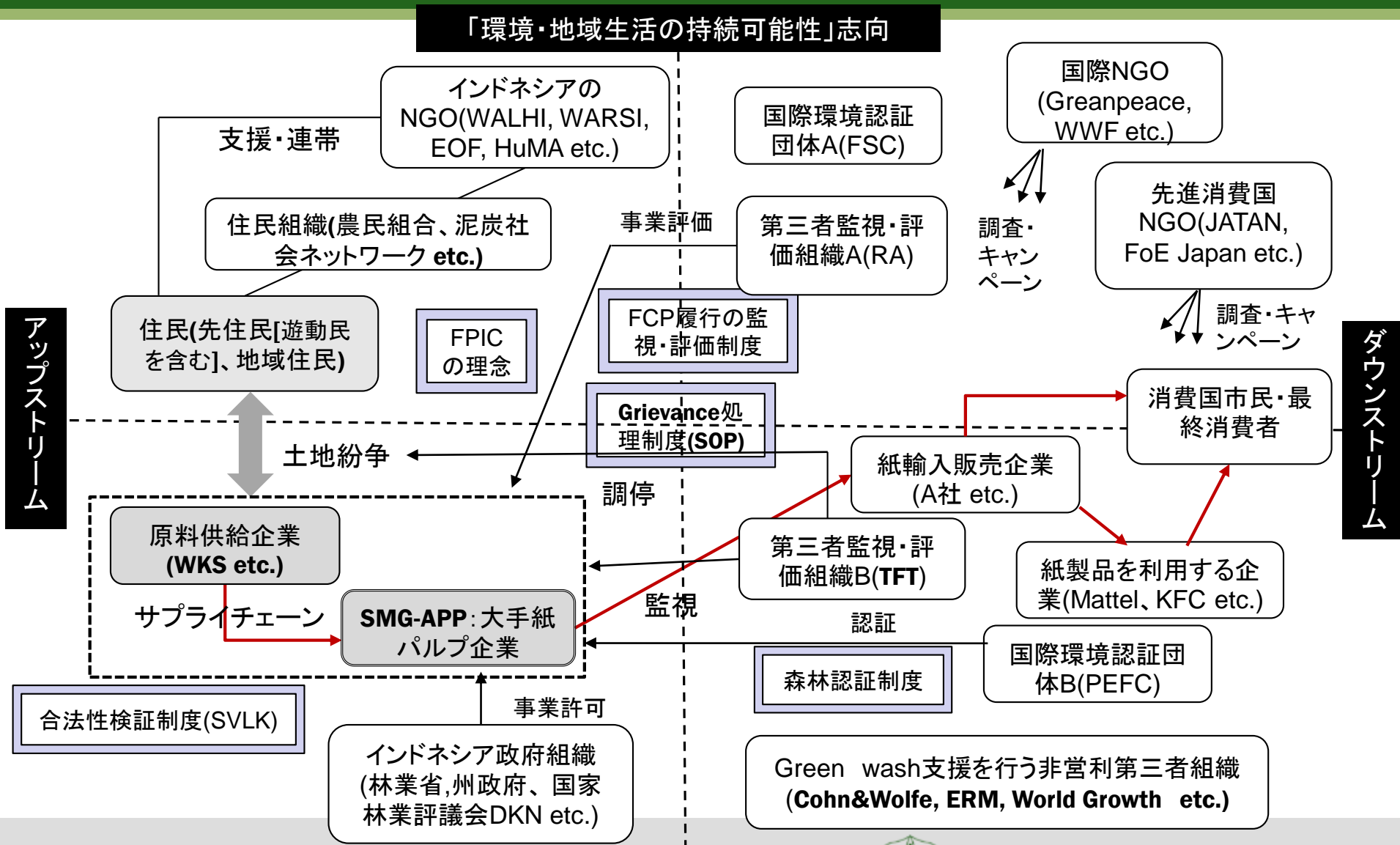
[Learn More](#)

出所: <https://www.asiapulppaper.com/sustainability/vision-2020/forest-conservation-policy>



HOKKAIDO UNIVERSITY

紙パルプ原料の「責任ある生産」を目指す グローバル環境ガバナンスのアクター相関図



「企業経営の持続可能性」志向

パワフルなアクターの言説実践による「現実」の構成



出所: APPホームページ

急速に進む地球温暖化。これまで熱帯雨林を守ろうとする声は高かったが、抜本的な解決の手立てはなく、21世紀となってもこの分野でイノベーションが起きることはなかった。そんな中、世界に先駆けて行動を起こしたのがアジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループ（以下APP）。地域住民による生計手段確保のための森林伐採や多民族問題などを抱え、極めて困難とされてきたインドネシアの森林保全において、次々と施策を実施し世界の注目を集めている。2013年、「自然林伐採ゼロ」を誓い事業転換を図ったAPP。サステナビリティを推進するリーダー企業が、これまで歩んできた軌跡と現在の取り組み、今後の展望を語った。



この映像は2016年9月14日に日経新聞電子版に掲載されたものです。

出所: http://www.compositeview.jp/nbo_app/index.html



パワフルなアクターの言説実践による「現実」の構成

アスクルのインドネシア製コピー用紙の原材料の植林木パルパは、

「木の畑」でつくられています!

アスクルでは、植林した森を「木の畑」と呼びます。
苗木を植えて、育てて、収穫する。
それを繰り返すことで、自然林を切らずに
植林木で作られたコピー用紙を
これからもずっとお届けしていきます!

ASKUL Eco Project

Spring &
Summer
2015



ナンバー1[®]の責任

日本一売られている[®]
アスクルオリジナルコピー用紙。
さらなる品質向上。
環境配慮に
取り組んでいます!

Column

2015年の 収穫に向けて!

アスカ 森林担当
東 俊一

コピー用紙の製造委託先の植林地があるインドネシアのジャバ Barat アラ州を定期的に訪問して4年が経過しました。2015年には育樹と共に収穫期を迎えます。私たちはこれを「収穫」と呼ぶことにしました。植えて、刈り取るから収穫です。畑で育て、採る農作物と同じです。これが産業植林です。



1 box for 2 trees

アスクルオリジナルコピー用紙
1箱のご購入が2本の植林木につながる
「1 box for 2 trees」プロジェクトです。

2010年10月
植えた苗木の樹高は、高さ20cm。

2011年4月
平均樹高が約1.5mに成長。直径5cm、高さ30cm。

2012年10月
2年が経過。直径11cm、高さ15mに。

Eco News 1
自然林を切らずに原材料を調達すること。

Eco News 2
途上国の森林を守り、増やす活動に参加しています!

20ha Project

修復・再生の森づくり

地域住民と一しよに自然林を再生しています!

アスクルでは2011年12月からインドネシアの貴重な森林の修復・再生を推進する「アスカ」の協力しなから取り組んでいます。プロジェクトでは、森で暮らす人々の生活と森林保全の両立を目指し、将来の収入が期待できるインドネシア産有薪の木を植えています。

インドネシア共和国 リア州 ベンタラ地区 プネットの村 保護区の中の20ha (東京ドーム約4.2個分)

アスクルは、その他にも、環境対応のコピー用紙を揃えています!

環境対応のコピー用紙についてもっと知っていたために、アスクルではWeb上における各種情報を掲載しています。古紙/再生紙使用/植林木パルパ使用、FSC認証、PEFC認証など、アスクルのコピー用紙はすべて環境対応です!

詳細と最新情報はリニューアルしたWebへ → 1for2.askul.co.jp

FSC® 認証

FSC 認証は、森林減少や劣化の懸念などを管理して生まれた「森林の持続可能な管理」を確保する。適切な森林管理が行われていると認められた森林から収穫された木材や木製製品はFSCのロゴマークが付けられています。

「アスクル紙製品に関する調達方針」はこちら → www.askul.co.jp/csr

PEFC 認証

PEFC 認証は、森林資源の持続可能な管理を確保する。適切な森林管理が行われていると認められた森林から収穫された木材や木製製品はPEFCのロゴマークが付けられています。

出所: AS社「2015年春・夏号カタログ」



HOKKAIDO UNIVERSITY

グローバル環境ガバナンスの制度的外観の整備は何をもたらしたか？そしてフィールド研究者に求められるものは？

- 見えないガバナンス・ギャップ
- パワレスなアクターの「ガバナンス」の経験をフィールドワークにより内在的に描くことが重要



ジャンビ州テボ県L村B集落



予備調査での気づき

- (1)** 情報発信力の差を背景に、パワフルなアクターの主張のみが公共圏を流通していくという問題
- (2)** 土地紛争の解決プロセスで焦点化されている「問題」から、地域の生活者が経験しているさまざまな「被害」が漏れ落ちているという問題



植林による環境変化と土地紛争の「被害」(聞き取り調査から)

- 河川水量の不安定化(乾季の渇水と雨季の洪水)
- 河川の水質汚染(植林地での農薬散布、および、アカシア残材の河川投棄による)
- 河川での漁獲量の減少
- 木材搬出用トラックが巻き上げる砂埃による健康被害
- 慣習林の減少による林産物入手可能性の低下(農民の土地に対する権利が認められるのは永年性作物が植栽された土地のみであることから、企業による土地の囲い込みが進むなかで、住民たちが慣習林を伐採し、ゴムやアブラヤシが植えていったことによる)
- 米自給システムの崩壊(多くの住民が土地に対する権利を主張しにくい陸稲の栽培を避け、土地権が認められやすい永年性作物栽培に転換したため)
- 農地におけるアカシアの繁茂
- アカシア収穫後に大発生する甲虫による農作物への食害 …などなど

フィールドワークを通じて、環境ガバナンスをめぐる「隠れた物語」—カのあるアクターの言説実践によって構築される「現実」とは異なる、現場の名もなき人びとの語りにより浮かび上がる、当事者が経験する開発や紛争解決の姿—を「被害」に着目して丹念に掘り起こす

今後取り組む研究の課題

1. 植林による環境変化と土地紛争が「地域の生活者」にいかなる「被害」をもたらしてきたのかを、
 - 単に土地・生計手段を奪われるという直接的被害のみならず、生活環境の劣化により貧困化のリスクが高まるといった間接的被害、長期化する紛争を生きることの苦痛や「不法占拠者」として生きることの「生き難さ」といた精神的被害など
 - 「被害」の多面性、それら相互の連関性、そして、「被害」と社会的属性との相互関係に着目して「被害」を総体的・内在的に明らかに
2. 紙パルプ用原料生産現場に生きる住民にとってのリアリティと、紙・パルプ生産・販売企業の環境CSR広報(環境レポート、ウェブサイト、その他のメディアでの広報)の内容とを比較し、両者のあいだにどのような齟齬があるかを明らかに
3. そうした齟齬を埋め、地域の生活者にとっての「問題解決」とはなにかという視点から現在の「グローバル環境ガバナンス」を問い直す際に、「被害」の総体的・内在的理解を試みるフィールド研究が果しえる役割について考察



この研究の目指すもの

1. ガバナンスの進展の結果土地が取り戻せても、植林地に取り囲まれて生活する人々が経験する「被害」
2. 住民にとってのリアリティと企業の環境CSR広報の齟齬、地域の人びとにとっての「問題」とガバナンスの対話の場で焦点化される問題とのズレ、それら齟齬・ズレを生む要因
3. こうした祖語を埋めるための批判的「媒介者」(フィールド研究者、NGO)の役割・・・熱帯林(土地)に対して複数の価値が激しく対立する(トレードオフ関係にある)場における「媒介者」の役割
4. GEGの「進展」によって、誰によって何がどのように統治されることになったのか
 - ガバナンスにおいて経験を無効化する特権的な知や無条件に刷り込まれている価値観(佐藤 2009)→他にもありえたかもしれない生き方への想像力の遮断
 - ガバナンスの進展の帰結としてのコメ自給システム(伝統的焼畑システム)の崩壊→このことをどのように見るべきか
 - 今の仕組みの下、「対話」が進められても、一企業が広大な土地を囲い込んでいる状態、土地紛争や土地の取り合いによって進む熱帯林消失の構造的背景的原因はそのまま放置されかねない→このことをどう見るべきか

